

令和 2 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立皆生養護学校
 学校長 岩 田 光 冬

評 価 日	令和 3 年 2 月 1 7 日 (水)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 ・進路指導課のCという結果と高等部のBという結果は接点があるのでは。キャリアパスポートはキャリアをどう捉え、可能性や選択肢をいかに広げていくか、自分の棚卸しの1つの切り口であり、スタイルではなく内容が濃ければよいのでは。高等部は実際はしっかり指導がなされており、A評価でよいのでは。 (2) 説明・公表について ・時間外業務の削減が善、削減できていないのが悪という印象を受ける。地域とのつながりを強めるのであれば、逆に業務が増えるのでは。業務内容が変わらなければ表面に出ない時間外業務が増え、無理している状況を言えない職員もいるのでは。お互いが気を使いながら取り組んでほしい。 ・保護者アンケートを生かして、年々ステップアップしていて、皆さんの頑張りが伝わってくる。 2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について ・制約のある1年だったが、逆にできることが見つかった年でもあり、遠隔合同学習やボッチャ等の障害者スポーツに取り組む中で新たな楽しさや意欲につながっている。 ・生徒がドローンの学習で作成した学校紹介ビデオをホームページに挙げてよいのでは。 3. 取組改善のための提言 ・新型コロナウイルスの関係でせっかく減った時間外業務削減を今後軌道に乗せる取り組みができればよい。		・キャリア教育を学校経営の重点項目にも挙げており、今後も学習の積み上げが図れるよう、事例紹介や内容の検討を進め、活用できるものにしていく。また、キャリア教育についての指導の充実に努める。 ・行事や会議等の削減や内容の変更等小さな工夫・取り組みを積み重ね、その中で改善方法を検討していく。評価展望職員会等の職員からのアンケートも改善に向けて生かしていく。 ・今後も真摯に保護者の思いに耳を傾け、疑問点や説明不足の面は、丁寧に説明していく。また、方向性が違う場合は、「何が大切か」をじっくり話し合い共有できるよう対応していく。 ・計画通りに取り組むことができない状況もあるが、子どもたちの可能性を引き出し、自己実現・社会参加につながる取り組みをその都度状況に応じて取り組んでいく。 ・今後も効率化・簡素化の視点で、行事や作成物、業務の手順書等検討、見直しを継続していく。